

CASBEE 京都-新築 (2011年版)
京都学園太秦キャンパス

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2011年)
 ■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2011(v.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 急激変動・過渡制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
5 漏気・漏熱制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視・アラート								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 眩光防止の対策								
2 昼光制御								
3 遮光対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 VOC対策								
3 臭気対策								
4 CO2対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 換気計画								
4.3 運用管理								
1 CO2の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性					2.2	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				1.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.3	0.29			3.3
3.1 空間のゆとり					4.2	0.31			
1	階高のゆとり			階高4m	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31			
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			3.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30			3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、自然	A'(全国版準用)	歩道上空地の設置。軒庇の設置。等	4.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.6
LR1 エネルギー					-	0.40			4.0
1 建築物の熱負荷抑制				適切な断熱材設置によるPAL値の向上。	4.0	0.30			4.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電の設置	5.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					5.0	0.30			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=158.2%	5.0				
集合住宅の評価					4.0				
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.4
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				節水コマ、省水型機器の採用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.63			3.4
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	躯体、設備機器、仕上の分離が容易。	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.4	0.22			3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用				有害物質を含まない材料の使用。	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.68			
1	消火剤				2.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			
3	冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮					5.0	0.33			5.0
2 地域環境への配慮					2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			適切な自転車置場、駐車場の配置。	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					2.5	0.33			2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.33			
2	振動				3.0	0.33			
3	悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害、日照障害の抑制					2.6	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.60			
2	砂塵の抑制				1.0	0.20			
3	日照障害の抑制				3.0	0.20			
3.3 光害の抑制					1.6	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ● 重点項目 ○ 低炭素建築創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」大切に使う 「とも」ともに使う 「自然」自然からつくる